



狛江市議会議員

2017. 4・10

山本あき子の議会報告

<http://yamamotoakiko.seikatsusha.me/>

◇平成 29 年度(2017) 予算に賛成しました。

一般会計の予算規模は 266 億 9 千万円で、前年度比 1 億 200 万円 0.4%の増、その主な要因は保育園の待機児解消に向けた保育定員拡大による保育所運営費負担金増などです。在宅子育て支援として自然の中で親が交互に助け合いながら保育する自主保育やプレパークへの補助、北部児童館新設や学童保育所のひろば事業など多様な支援を評価します。現在は若者の定義や範疇も広がり、それぞれが抱える問題も発達障がい、精神疾患、無業、不登校・中退、引きこもりなど多様で複合的です。生活者ネットが若者支援は喫緊の課題と指摘してきた結果、児童青少年部が担当となり連携を図ることになりました。こまえ子育て応援プランの追補版として**子ども・若者計画の策定と支援マップの作成を今年度中に実施する**ことは大きな前進です。学校における障害者差別解消法と合理的配慮の正しい理解を浸透させ、中学校で障がいに特化した形でのタブレット活用を保障すべきです。人権課題としての**LGBTについて職員と市民が学べる研修会**を開催することは評価します。水と緑のまち実現へ向け緑化基金を活用し、樹林地などの買い取りや公園の確保を計画的にすすめることを要望します。総合事業は相談窓口として地域包括支援センターの機能強化へ向け、生活支援コーディネーターの役割と活動を明確にし、地域資源の掘り起こし等含め取り組むべきです。通所型サービスBは開催場所に偏りがあるため送迎体制を整えると共に、今後身近な地域でもサービスを受けられるよう拡充を期待します。生物多様性地域戦略策定は狛江独自の自然を長いスパンで捉えた環境保護の視点が大切です。

市のさまざまな計画の策定では調査分析を含め民間企業や法人、コンサルタントの力を活かしつつ、「市民参加と市民協働に関する基本条例」に照らした市政運営と、そのための人材育成を要望しました。

〈一般質問〉

◇生まれ育った環境に左右されない未来のために

広がる貧困と格差がこどもの進学や就職、その後の人生に大きな影響を与えています。**日本におけるひとり親の貧困率は 50.8%**、二人にひとりが貧困状態で、これはOECD諸国 33 か国中ワースト 1 位です。貧困の連鎖はもはや自己責任論では済まされない社会全体の深刻な問題と言えるでしょう。狛江市での実態を把握するためにも、剥奪指数(貧困によって何が剥奪されているかを示す指数)によるこどもの生活実態調査を行うべきと要望しましたが、必要性を含めて検討するとの答弁でした。**貧困は子どもから学習や生活体験の機会を奪うだけでなく自己肯定感をも奪います**。今はもう、子どもの貧困があるかないか議論する段階は過ぎていると思います。すぐにでも、家族ぐるみのサポートが支援を必要としている家庭に届くよう取り組むべきです。そのために今、**学校と福祉の連携**が必要です。学校は勉強を教えるところであって、子どもの貧困は関係ないといった意識が改められるよう要望しました。【詳細はHPをご覧ください】

◇豊かな環境を未来につなぐために

明治神宮は 100 年前に荒地だった代々木御料地に林学や造園学の研究者が構想し計画された人工の森です。現在、神宮の奥の森には微生物や菌、虫や鳥が集まり、オオタカが子育てする姿や外来種でないタンポポも見られます。環境保護は 50 年 100 年先、子どもたちに残したい狛江の自然とは何かという構想を持つことが大切です。今年度から始まる生物多様性地域戦略策定へ向け環境行政のあり方を質しました。

狛江・生活者ネットワーク

狛江市東和泉 1-1-25-101

TEL03-3430-1302 fax 03-5761-0678

E-mail

komanet.seikatusya@nifty.com